

日本臨床発達心理士会千葉支部 2021 年度第 2 回資格更新研修会のお知らせ

日時 2021 年 12 月 26 日(日) 13 時 00 分～16 時 00 分

会場 Zoom による配信 (入室は 12 時 30 分より可能)

千葉支部会員向け研修会(他支部からの参加はできません)

事前参加申込が必要、定員 60 名、参加費 1,000 円、研修ポイント 1 ポイント

テーマ「WISC-IVから WISC-Vへ」

講師 大六 一志 先生 (日本臨床発達心理士会茨城支部)

要旨

本研修会は、Zoom による配信にて実施します。

2014 年より米国での使用が始まっている WISC-V 知能検査の日本版の刊行が間近となってきました。ご承知の通り、WISC-IV は現在最もよく使われる身近な知能検査となっています。本研修会では WISC-V の特徴、WISC-IV からの変更点などについて、大六一志先生に講義していただきます。

本研修会をとおして、WISC-V の内容や WISC-IV との違いについて知ることと同時に、今後の活用の方向性について参加者の皆さんと共通理解し、考える機会としたいと考えます。

○参加方法

◆千葉支部会員向け研修会で事前参加申込が必要です。

申込受付期間 2021 年 11 月 10 日(水)より 11 月 20 日(土)まで。

氏名、登録番号を明記の上、jacdpchiba@yahoo.co.jp宛てにメールで送信してください。

参加の可否についてと参加費の振込方法について返信します。先着順に受け付け、定員になりしだい締め切りといたします。

◆2021 年度までの会費が未納の方は参加できません。不確かな場合は必ず申込前に会員情報管理システム SOLTI で確認してください。

◆参加費の振込が完了した方に、研修会資料の配布方法と Zoom への参加方法について、メールで送信します。申込時のアドレスに返信しますので、必ず返信メールが受け取れるアドレスから参加申込をしてください。

◆当日の研修会終了後 1 時間以内に、講義の中にあつた複数の「合い言葉」をメールで送信していただき、研修会参加が完了したことになります。

◆本研修会に参加するためには、Zoom ミーティングに参加するための設備(パソコン、Web カメラ、マイク等)と環境(ソフト、インターネット接続)が整っている必要があります。

○確認事項と遵守事項

申込にあたっては必ず下記についてご確認ください。申し込まれた方については下記の確認事項と遵守事項に同意されたものとさせていただきます。

◆確認事項

- 1.当日の通信状況や参加者の操作ミス等により講義を視聴できなかった場合について、個人に講義内容の再配信は行いません。視聴できずポイントが付与されなかった場合は、参加費を返金いたします。また、参加費振込後にキャンセルをされ視聴しなかった場合も返金をいたします。返金額は参加費から振込手数料を差し引いた金額といたします。
- 2.本研修会の講義は録画をさせていただきます。録画されるのは講師の講義の内容で、参加者の様子が録画されることはありません。後日、講義の録画を使って研修会を行う場合があります。

◆遵守事項

1. Web 研修会を受講できるのは、受講申込をした本人に限られます。本人の代わりに他人が受講してはいけません。
- 2.講義や資料のリンク先の URL を他人に教えたり、SNS やブログなどで公開したりしてはいけません。
- 3.参加者は講義を撮影、録画、録音、公開をしてはいけません。
- 4.講義内容や配付資料を SNS やブログなどに公開してはいけません。
- 5.配付資料の電子ファイルを他人に送信したり、コピーを他人に配付したりしてはいけません。
- 6.その他、倫理綱領に抵触する行為をしてはいけません

(以上の遵守事項は、「士会支部主催のオンライン研修会においてポイントを付与する基準」

2020.8.8 日本臨床発達心理士会執行部会、より)

千葉支部 2021 年度第 2 回資格更新研修会 報告

2021 年 12 月 26 日(日)13 時~16 時 Zoom 配信によるオンライン研修会

テーマ「WISC-IVから WISC-Vへ」 講師 大六 一志 先生

今年度第 2 回の研修会も Zoom によるオンライン研修会となりました。今回もオンライン研修会 にともなう事前準備や参加者数の制約ことを考慮し、千葉支部会員向けとさせていただきます。参加者は千葉支部会員 58 名でした。

千葉支部では 2016 年度に「WISC-IV 知能検査の解釈と支援」について大六先生にご講演いただき、大変好評でした。今回の研修も、受付開始当日に申し込み数が定員に達してしまうほど、関心の高い研修テーマだったようです。大六先生には、年末最後の日曜日であることに加え、WISC-V 発売に重なり、かなりご多忙の時期だったと思いますが、ご快諾をいただき深く感謝申し上げます。Zoom による実施もあり制約のある中でしたが、大変わかりやすくお話をいただき、充実した研修の機会となりました。

今回の WISC-V への改訂は、定期的な改訂ということに加え、それぞれの検査ごとに検討するのではなく、CHC 理論に基づきメタ的に内容の見直しがなされました。理論やエビデンスに基づいて整理された一貫した知能因子に準拠して、検査を作成し、個々の問題についてその原因の解釈に活かせるものにしていこうとする流れを受けた改訂でもありました。

主な改訂内容として、CHC 理論で想定されている広域能力のうち、「流動性能力/推理」と「視覚処理」の 2 種類の能力を合わせた形で測定されていた WISC-IV の「知覚推理指標」が、理論に準拠し「流動性推理」と「視覚処理」へと分けられました。そのため、WISC-IV の 4 指標から 5 指標となり、これらが「主要指標」とされます。さらに、理論的に考えられる能力を加え、5 つの補助指標と 3 つの関連指標（これについては、少し時期を置いて出される予定）とで構成されることとなりました。

理論的な整理に伴い、「流動性推理」、「視覚処理」に対応するものなどを含め新しい下位検査が 8 つ（関連指標含む）加わり、「絵の完成」など 2 つが廃止され、FSIQ は 7 つの下位検査、各主要指標は 2 つの下位検査から産出できるように作られています。検査者が、ケースごとに必要な内容を選択して実施することが求められていきます。

また、これまで検査者の観察によっていた「積木模様」、「符号」、「記号探し」等のプロセス分析についても、部分点が用意されるなど数値化できるようにもなりました。

なお、今後、i-pad 版の発売も予定されているそうです。これにより、検査終了時には自動的に集計が完了していることとなります。被験者本人や保護者、関係者が、得られた情報を具体的に生活や学習に還元していけるよう、より納得のできる、わかりやすい説明をしていくことに、私たち臨床発達心理士が力を注いでいきたいものです。 (堀 彰人)